

令和４年度 第３回丸亀市産業振興推進会議 全体会議 (会議録)	
日 時	令和４年 10 月 27 日（木）午後２時～午後３時半
場 所	ボートレースまるがめ外向発売所 B ポート 2 階会議室
出席者	(丸亀市産業振興推進会議 会長) 小山会長（京都橘大学経済学部 准教授）
	(丸亀市産業振興推進会議 委員) 21 名中、12 名出席 梶谷委員、桑田委員、菅沼委員、杉尾委員、土井委員、西川 平二委員、馬場委員、東原委員、松岡委員、松下委員、真鍋 有紀子委員、矢野委員（五十音順）
	(丸亀市産業文化部産業観光課) 平尾課長、志村副課長、村山担当長、横井主任、吉田副主任
	(アルパック) 山部氏、山口氏
欠席者	奥田委員、内海委員、柴田委員、筒井委員、西川 正則委員、濱中委員、藤井委員、松原委員、真鍋 宣訓委員（五十音順）
傍聴者	なし
議 題	1. 挨拶（小山会長） 2. 本日の会議進行について 3. 議事 (1) ヒアリング調査及びアンケート調査について (2) 次期計画の構成案について (3) 次期計画の理念案について (4) 次期計画の方向性 提示・協議 (5) その他 4. 閉会
会 議 の 概 要	
1. 挨拶 京都橘大学 小山会長より挨拶。	
2. 本日の会議進行について 事務局より本日の会議進行に関する説明。	

3. 議事

(1) ヒアリング調査及びアンケート調査について

アルパックより資料1に関する説明。

(小山会長)

- ・新事業展開や新しいチャレンジへの意向がある一方で、人材面の不足は課題だということがよくわかる結果になっている。何かご意見はあるか。

(梶谷委員)

- ・P5の事業者の売上だが、増加・横ばい以外は「減少」という理解でよろしいか。

(アルパック)

- ・その通りである。

(松岡委員)

- ・P17について、1次産業の重要性を取り上げてくれたことは有難い。1次産業は日本のGDPの1.5%に過ぎないが、非常に重要な産業である。
- ・資料1に整理されている課題はその通りである。耕作放棄地は増える一方だが、遊休農地の発生を防止して農地を維持していくことが大事である。
- ・食料自給率の確保には農地と人材の確保が大事である。

(小山会長)

- ・これ以上農地を減らすのは、日本の食料安全保障上においても問題である。

(矢野委員)

- ・遊休農地という概念には、耕作放棄地も含まれているのか？

(松岡委員)

- ・遊休農地は耕作放棄地の前段階（予備軍）という理解で良い。

(小山会長)

- ・現時点でのアンケートの有効回収率はどれくらいか。

(アルパック)

- ・有効回収率は約13%である。

(小山会長)

- ・これだけ回収していればそれなりに説得力がある。アンケート調査の回収率は「地域の産業活力」そのものである。他自治体でのアンケート調査も多くみてきたが、この数値自体は決して悪い数値ではない。

(杉尾委員)

- ・丸亀市内の事業者の現状はよく理解したが、例えば、人材確保、販路開拓、原材料高騰などの課題は、自分達では対応することはできない。一企業だけではどうにもならない課題である。そうした課題にどう取り組むか、今後の方向性を打ち出すことが大事である。

(小山会長)

- ・そうした課題の重要性は、今回のアンケート調査でも表れており、数値として把握されることは重要な意味を持つ。丸亀市の産業振興計画に反映されることが重要である。こうした自治体のデータが蓄積されることで、いずれは地域は国を動かす原動力になるだろう。

(矢野委員)

- ・アンケート調査の回答数としては、十分なことは理解した。新産業や新分野への進出意向が高いことも理解したが、そうした想いを実際に地域の活力につなげていくことが重要である。そうした数値が持つ意味を掘り下げて考えないといけない。

(小山会長)

- ・アンケート調査について、数値に表れた意味を掘り下げて解釈するのは非常に難しいが、重要な視点でもある。そうした数値を信じて、新しい方向性に踏み出していくことが重要ではないか。

(矢野委員)

- ・私もアンケートに回答したが、アンケート調査には限界を感じる。どこまで事業者の意図を正確に反映できるかが重要である。

(小山会長)

- ・今回の調査全体でいえば、アンケート調査を補填・補強するためにヒアリング調査がある。ヒアリング件数も 30 件以上実施しており、丁寧に声は拾えているのではないか。

(東原委員)

- ・アンケート結果には共感する部分もあるが、丸亀の実態をどれだけ反映できているかという視点も重要である。現状、それが本当に丸亀市の課題なのか、また丸亀市の強みは何かという視点も重要である。

(松岡委員)

- ・農業者専用のアンケートをやって欲しかったが、代替としてヒアリング調査になった。ヒアリング結果では、大規模農家が中心の調査となっており、小規模農家の実態把握は十分ではないかもしれない。小規模農家の現状も知って欲しい。

(小山会長)

- ・今、委員から指摘があった視点はいずれも重要である。それをふまえて、調査のとりまとめや計画書への反映をお願いしたい。

(2) 次期計画の構成案について

アルパックより資料 2 のうち次期計画の構成案に関する説明。

(小山会長)

- ・特に問題はないだろうか。問題なければ、この方向性でまとめていきたい。

(委員全員)

- ・異議なし。

(3) 次期計画の理念案について

アルパックより資料2のうち次期計画の理念案に関する説明。

(小山会長)

- ・これに関して市から何か意見はあるか。

(丸亀市)

- ・「未来の100年企業」というキーワードは、前会長の岡田先生のもとで何度も議論して設定したものである。特段異論がなければ、基本理念のキャッチフレーズはこのままでいきたい。

(矢野委員)

- ・「中小企業者等」といった表現ではなく、文章（計画書）の段階においては「中小零細企業」といった表現でも良いのではないか。条例に定められているからといって、すべてをこの表現にする必要もないだろう。

(小山会長)

- ・文章表現については改めて検討が必要だろう。

(西川委員)

- ・中小企業及び零細企業（以下、中小企業者等とする）のような表現でどうだろうか。

(小山会長)

- ・書き方は様々であるため、そこは流れの中で適当な形式を選択したら良い。

(梶谷委員)

- ・視点①「人を育てる」という文言は、教育的な表現であり、教育を通じて人材のレベルアップを図ろうというニュアンスを感じてしまう。もちろん重要な視点だが、いかにして丸亀に人材を取り込んでいくかという視点も大事である。

(小山会長)

- ・これまでの各部会長との議論でも、人を育てる、職業教育といった視点は重要だと感じている。教育的視点だけではなく、人づくりや人間形成という視点も大事である。

(矢野委員)

- ・中小企業、中小零細企業、中小事業者等といった表現については、細心の注意を払ってもらいたい。

(小山会長)

- ・計画書を作成する段階には注意してもらいたい。

(桑田委員)

- ・基本理念については、「他力本願感」がある。周りの人たちに助けてもらうことが前提と

なっている。丸亀の課題は自分達で解決しなければならないことを認識すべきだ。

(小山会長)

・市が主体的にできること、まわりと連携して取り組むべきこと、などいくつかのフェーズがあるだろう。すべてを他力本願にしているわけではないので、文章の表現には注意が必要かもしれない。

(東原委員)

・丸亀市総合戦略にも産業振興政策の方向性があるが、そこで記載されている KPI などとの整合性はとらないといけないだろう。

(丸亀市)

・関連計画との整合性は取りながら策定を進めていく。

(西川委員)

・「丸亀」と「丸亀市」などの表記は統一するべきではないか。

(アルパック)

・最終的には統一していく。

(小山会長)

・最終的には文言を精査して適切な表現に変えていく。

(西川委員)

・誰が何に取り組むのか、誰が主催するのか、といった視点も重要になる。主役が誰かというのを明確に表現してもよいだろう。

(小山会長)

・どこかに主体者は誰かという視点で、自分事として取り組めるような意志の表示や見せ方の工夫があってもよいだろう。

(4) 次期計画の方向性 提示・協議

アルパックより資料2のうち次期計画の方向性を提示。

(小山会長)

・第3次産業振興計画で新しく追加された視点が、周辺自治体や経済団体等との広域連携強化である。何かご意見はあるか？

(菅沼委員)

・6つの柱については、それぞれが独立するものではなく、どれか1つに取り組めば他の柱にも好影響を与えていくことになるだろう。そうした側面を上手く表現できると良い。
・人材の高度化が進めば、自ずと産業の課題も解決していく。掛け算が掛け算を生んで、好循環が生まれる仕組みを作るべきだ。

(アルパック)

・この表現だと1から6が少しバラバラのイメージがあるので、丸亀市と相談しながら表現

方法については検討していきたい。

(杉尾委員)

・水平方向への展開として、周辺の経済団体ともっと連携してはどうか。例えば、観光的な側面であれば、周辺自治体の観光協会や事業者とも連携しながら取組を進めていければ良いだろう。具体的なプレイヤーなどを書けると良いのではないか。

(小山会長)

・P8の周辺事業者の部分は、少し書き方を工夫しても良いだろう。
・柱の3本目について、創業・新規事業展開という視点も重要になる。

(東原委員)

・産業発展には、企業誘致の視点もあるので、どこかで触れてはどうか。

(小山会長)

・本日の指摘もふまえて、事務局にて文言等は調整してもらいたい。

(5) その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明。

午後3時30分閉会

(以上)